

■ 返り点と送り仮名のつけ方講座

(正しい順序で施そう！)

【^レ点】すぐ上の一字に戻る。

登^ル山^ニ。

▼山に登る。

▽山に登る。

①最初に「山ニ」と読むので、「山」の右下に送り仮名「ニ」を施す。

②すぐ上の「登」に戻るので、「登」の左下に「レ点」をつける。

③「登ル」と読むので、「登」の右下に送り仮名「ル」を施す。

※注意

- ・ 返り点と送り仮名は、読む順につけていくのがポイント。
- ・ 送り仮名だけまとめて先に施して、後から返り点をつけるのはNG！

■ 返り点と送り仮名のつけ方講座

(正しい順序で施そう！)

【レ点の連続】

歳月不^レ待^タ人^ヲ。

▼ 歲月人を待たず。

▽ 年月は人を待たない。

- ① 最初に送り仮名が必要なのは「人ヲ」なので、「人」の右下に送り仮名「ヲ」を施す。
- ② すぐ上の「待」に返るので、「待」の左下に「レ点」をつける。
- ③ その後、「待タ」と読むので、「待」の右下に送り仮名「タ」を施す。
- ④ さらにすぐ上の「不^ず」に返るので、「不」の左下に「レ点」をつける。

※ 注意

- ・ 「不」を「ず」と読むが、振り仮名はつけないこと。
- ・ 送り仮名だけまとめて先に施して、後から返り点をつけるのはNG！

■ 返り点と送り仮名のつけ方講座

(正しい順序で施そう！)

【いちに二点】二字以上離れた上の一字に戻る。

見^ル南^ニ山^ヲ。

▼なんざん南山を見る。

▽南の山を見る。

①最初に「南山ヲ」と読むので、「山」の右下に送り仮名「ヲ」を施す。

②「山」から二字上の「見」に戻るので、まず「山」の左下に「一点」をつける。

③その後、「見」の左下に「二点」をつける。

④「見ル」と読むので、「見」の右下に送り仮名「ル」を施す。

※注意

・送り仮名だけまとめて先に施して、後から返り点をつけるのはNG！

・一二点は必ず「一」↓「二」の順につける。

■ 返り点と送り仮名のつけ方講座

(正しい順序で施そう！)

【^{いちにさん}一二三点】二点から、さらに二字以上離れた
上の一字に返る

欲^ス東^{ノカタ}渡^{ラント}鳥^ニ江^ヲ。

▼東のかた鳥江^{うかう}を渡^ほらんと欲^ほす。

▽東の方へ鳥江を渡ろうとした。

①最初に送り仮名を施すのは「東ノカタ」なので、「東」の右下に「ノカタ」を施す。

②次に「鳥江ニ」と読むので、「江」の右下に「ニ」を施す。

③「江」から二字離れた「渡」に返るので、まず「江」の左下に「一点」をつける。

④続いて、「渡」の左下に「二点」をつける。

⑤「渡ラント」と読むので、「渡」の右下に、送り仮名「ラント」を施す。

⑥さらに二字上の「欲」に返るので、「欲」の左下に「三点」をつける。

⑦最後に「欲ス」と読むので、「欲」の右下に「ス」を施す。

■ 返り点と送り仮名のつけ方講座

(正しい順序で施そう！)

【^{いちに}二点】熟語に返る時は？

三省^ス吾^ガ身^ヲ。

▼吾^わが身を三省す。

▽自分自身を三回振り返る。

①最初に「吾ガ」と読むので、「吾」の右下に送り仮名「ガ」を施す。

②次に「身ヲ」と読むので、「身」の右下に送り仮名「ヲ」を施す。

③「身」から「三省」に返るので、「身」の左下に「一点」をつける。

④二字以上離れた「三省」に返るので、先に読む「三」の左下に「二点」をつける。

⑤熟語に返ったことを示すために「三省」の間にハイフンをつける。

⑥最後に「三省ス」と読むので、「省」の右下に「ス」を施す。

※注意

・「三省^ス」と、熟語の後の字に二点をつけない！
いんやー！

■ 返り点と送り仮名のつけ方講座

(正しい順序で施そう！)

【レ点と一二点の混合】

士^ハ為^ニ知^ル己^ヲ者^ノ死^ス。

▼士は己^{おのれ}を知る者の為^{ため}に死す。

▽男は自分を理解する人のために死ぬ。

①最初に「士ハ」と読むので、「士」の右下に送り仮名「ハ」を施す。

②次に「己ヲ」と読むので、「己」の右下に送り仮名「ヨ」を施す。

③すぐ上の「知」に返るので、「知」の左下にレ点をつける。

④「知ル」と読むので、「知」の右下に「ル」を施す。

⑤次に「者ノ」と読むので、「者」の右下に送り仮名「ノ」を施す。

⑥「者」から二字以上離れた上の「為」に返るので、まず「者」の左下に「二点」をつける。

⑦続いて、「為」の左下に「二点」をつける。

⑧「為二」と読むので、「為」の右下に送り仮名「ニ」を施す。

⑨最後に、「死ス」と読むので、「死」の右下に送り仮名「ス」をつける。

■ 返り点と送り仮名のつけ方講座

(正しい順序で施そう！)

【上下点】一二点をはさみに返る

悪^ム下 称^{スル}二 人^ヲ之 悪^ヲ一 者^ヲ上。

▼人の悪を称する者を悪む。

▽他人の欠点を言いふらす人を憎む。

①最初に下の「悪」を「悪ヲ」と読むので、右下に送り仮名「ヲ」を施す。

②「悪」から二字以上はなれた上の「称」に返るので、まず「悪」の左下に「一点」をつける。

③次に「称」の左下に「二点」をつける。

④「称スル」と読むので、「称」の左下に送り仮名「スル」を施す。

⑤次に一番下の「者」を「者ヲ」と読むので、右下に送り仮名「ヲ」を施す。

⑥「者」から一番上の「悪」に返るのだが、間に一二点をはさむので、一二点は使えず、「者」に「上点」をつける。

⑦上に返って「悪」の左下に「下点」をつける。

⑧「悪ム」と読むので、「悪」の右下に送り仮名「ム」をつける。

※注意

・一二点をはさんでいるのに、また一二点をつけると、どの一点からどの二点に返るのかわからなくなるので、NG！

■ 返り点と送り仮名のつけ方講座

(正しい順序で施そう！)

【上中下点】じょうちゅうてん 上下点では足りない時に用いる。

不_下以_二私_テ恩_ヲ一害_セ公義_ヲ上

▼私恩_{しおん}を以て公義_{こうぎ}を害_をせず。

▽私的な恩義で公的な道義を損なわない。

- ① 最初に「私恩」を「私恩ヲ」と読むので、「恩」の右下に送り仮名「ヲ」を施す。
- ② 「恩」から二字上の「以」に返るので、まず「恩」の左下に「一点」をつける。
- ③ 次に「以」の左下に「二点」をつける。
- ④ 「以」を「以テ」と読むので、「以」の右下に送り仮名「テ」を施す。
- ⑤ さらに下の「公義」を「公義ヲ」と読むので、「義」の左下に送り仮名「ヲ」を施す。
- ⑥ 「義」から「害」に返って読むが、その「害」はさらに「不」に返らなければならないのに、その間に一二点をはさむことになる。そこでまず「義」の左下に「上点」をつける。
- ⑦ 次に「害」の左下に「中点」をつける。下点でないのは、まだ上の「不」に返らなければならないから。
- ⑧ 「害」を「害セ」と読むので、「害」の右下に送り仮名「セ」を施す。
- ⑨ 「害」から一二点をはさんで上の「不」に返るので、「不」の左下に「下点」をつける。

※注意

・「害公義」だけなら「害_二公義_ヲ」でよいのだが、「害」から「以_二私恩_ヲ」をはさむから、上中下点を用いるのだ。

■ 返り点と送り仮名のつけ方講座

(正しい順序で施そう！)

【^{いちれ}二レ点】見かけ上、特殊に見える返り点

壁^ハ不^レ可^{カラ}以^テ禦^グ寒^{キヲ}。

▼壁^{たま}は以^{ちう}て寒^{ふせ}きを禦^{ふせ}ぐべからず。

▽宝玉は寒さを防ぐことはできない。

①最初に「壁ハ」と読むので、「壁」の右下に送り仮名「ハ」を施す。

②次に「以テ」と読むので、「以」の右下に送り仮名「テ」を施す。

③さらに「寒キヲ」と読むので、「寒」の右下に送り仮名「キヲ」を施す。

④「寒」からすぐ上の「禦」に返るので、「禦」の左下に「レ点」をつける。

⑤次に「禦グ」と読むので、「禦」の右下に送り仮名「グ」を施す。

⑥「禦」から二字以上離れた上の「可」に返るので、まず「禦」の左下に「二点」をつける。

⑦続いて、「可」の左下に「二点」をつける。

⑧「可^べカラ」と読むので、「可」の右下に送り仮名「カラ」を施す。

⑨「可」からすぐ上の「不^ず」に返るので、「不」の左下に「レ点」をつける。

⑩「不」は「ず」と読むので、送り仮名は不要。これで終了。

※注意

・「二レ点」は、レ点と一点を、異なるタイミングで、同じ箇所につけていることを確認。

■ 返り点と送り仮名のつけ方講座

(正しい順序で施そう！)

【上^{じょう}レ点】見かけ上、特殊に見える返り点

カレ テ ノ ナルヲ スコトヲ
勿^ナ下^{カレ}以^テニ悪^ノ 小^{ナルヲ}一^{スコトヲ}為^ス之^ヲ。

▼悪の小なるを以て之^{これ}を為すこと勿^なかれ。

▽悪事の小さいことを理由にそれを行ってはいけない。

①最初に「悪ノ」と読むので、「悪」の右下に送り仮名「ノ」を施す。

②次に「小ナルヲ」と読むので、「小」の右下に送り仮名「ナルヲ」を施す。

③「小」から二字上の「以」に返るので、まず「小」の左下に「一点」をつける。

④続いて「以」の左下に「二点」をつける。

⑤「以テ」と読むので、「以」の右下に送り仮名「テ」を施す。

⑥次に「之ヲ」と読むので、「之」の右下に送り仮名「ヲ」を施す。

⑦すぐ上の「為」に返るので、「為」の左下に「レ点」をつける。

⑧「為スコト」と読むので、「為」の右下に送り仮名「スコト」を施す。

⑨「為」から「勿」に返るが、間に「一二点」をはさむので、まず「為」の左下に「上点」をつける。(これで上レ点になる！)

⑩次に「勿」の左下に「下点」をつける。

⑪「勿^なカレ」と読むので、「勿」の右下に送り仮名「カレ」を施す。

※注意

・「上レ点」も「一レ点」と同様、レ点と上点を、異なるタイミングで、同じ箇所につけていることを確認。